

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">地域福祉論研究</h1>	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	高橋 誠一	

## ■授業のテーマ

地域社会を知り、地域福祉を理解する

## ■授業の目的

地域社会を理解し、地域ごとに異なる社会資源のあり方を考える。  
また、少子化・高齢化の進む地域にあって地域福祉のあり方を考える。

## ■授業の到達目標

- ・社会資源への理解を深め、説明できる。
- ・社会福祉協議会の組織を知り、説明することができる。
- ・地域福祉の前提として、地域社会への理解を深める。また、地域社会とは何か説明できることが重要である。
- ・具体的には自ら生活している地域に対する理解を深め、地域社会の問題と関連付けることが重要である。
- ・地域福祉推進における福祉制度、地域福祉行政、さらにさまざまな地域づくりの取組の意義を説明できる。

## ■授業の概要

本講義では、2つの視点から地域福祉を考えていきます。第一に、住民主体の地域づくりという視点から、地域福祉の協議体としての社会福祉協議会の活動を考えます。第二に、地域福祉を推進するという視点から、制度、自治体の役割を考えます。とくに、地域福祉マネジメントという概念を用いて、地域福祉の推進がどのように行われているのか、を検討します。一見すると、マクロ、メゾのレベルから地域福祉を捉えていると考えられます。しかし、これらはミクロのレベルである住民の地域生活を支える基盤づくりです。ミクロのレベルの活動がマクロ、メゾレベルへと創発し、それがまたミクロレベルに影響を与える循環的な相互関係性の中の一面を見ているのです。全体を忘れず、地域福祉の理解を深めていければと思います。

## ■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	戦後の地域福祉の原点と歩み	住民主体の原則、東北の地域福祉	テキスト1) 1章から3章を読んでください。「山形会議」の意義を考える。
2	地域福祉の視点	住民主体の地域福祉、社会資源の開発	テキスト1) 第4章、第5章を読んでください。問題解決のための社会福祉資源の開発を、実践事例を通して学ぶ。
3	コミュニティオーガニゼーション	コミュニティオーガニゼーション、農村社会、地域組織活動	テキスト1) 補遺を読んでください。コミュニティオーガニゼーションを、農村における地域組織活動の実践事例を通して考える。
4	社会福祉協議会の地域福祉の取り組み① 地域福祉推進活動と小地域活動	地域福祉推進計画、小地域活動	テキスト2) 第1章、第2章を読んでください。地域福祉推進計画の実施における宝塚市社協の小地域活動の特徴を理解する。
5	社会福祉協議会の地域福祉の取り組み② 地域生活支援と地域共同ケアと総合相談支援体制	地域支援、地域生活支援、エリアチーム制、地域共同ケア、総合相談支援体制	テキスト2) 第3章から第5章を読んでください。宝塚市社協の地域支援におけるエリアチーム制の意義と住民と専門職の地域共同ケアの実践と総合相談支援体制の必要性を理解する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
6	社会福祉協議会の地域福祉の取り組み③ 地域運営組織の組織マネジメント	組織マネジメント、事業運営、エリアマネジメント、行政とのパートナーシップ	テキスト2)の第6章、第7章を読んでください。住民主体の協議体運営を多面的に理解する。
7	地域福祉行政の形成に向けた地域福祉マネジメント	地域福祉マネジメント、地域福祉行政	テキスト3)の第1章を読んでください。メゾ領域での地域福祉マネジメントを理解する。
8	地域福祉と包括的支援体制	包括的支援体制、マネジャー、段階別マネジメント、条件整備	テキスト3)の第2章を読んでください。地域福祉行政におけるマネジャーとマネジメントを理解する。
9	地域福祉マネジメントの自治体事例研究	自治体事例研究、フィールドワーク、フィードバック	テキスト3)の第3章を読んでください。自治体事例研究の分析視点を理解する。
10	地域福祉マネジメントから見た介護保険行政と地域福祉行政	コーディネーター、研修、協働マネジメント	テキスト3)の第4章を読んでください。協働マネジメントにおけるコーディネータの養成を考える。
11	生活困窮者自立支援制度における地域福祉マネジメント	生活困窮者自立支援制度、地域福祉の実験、条件整備、参加支援	テキスト3)の第5章を読んでください。生活困窮者自立支援制度における地域福祉マネジメントの役割を考える。
12	権利擁護支援と地域福祉マネジメント	権利擁護支援、利用促進計画、マネジメントプロセス	テキスト3)の第6章を読んでください。権利擁護支援における利用促進計画進行のためのマネジメントプロセスを理解する。
13	「多機関協働事業」と地域ケアマネジメント	多機関協働事業、地域福祉計画、プログラム	テキスト3)の第7章を読んでください。地域福祉計画進行管理と多機関協働におけるプログラムの関係を実践事例から理解する。
14	社会参加のまちづくりと地域福祉マネジメント	地域福祉行政、包括的支援の体制整備	テキスト3)の第8章を読んでください。社会参加のまちづくりにおける包括支援体制整備の実践事例を理解する。
15	行政改革と地域福祉マネジメント	地域福祉課	テキスト3)の第9章を読んでください。地域福祉課の必要性とマネジメントを実践事例を通して考える。

## ■レポート課題

課題1	住民主体の地域福祉における社会福祉協議会の役割を論じなさい。
課題2	地域福祉推進における制度と自治体の役割を地域福祉マネジメントの視点から論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

**課題1**  
アドバイス

テキスト1)、2)のテーマでもある課題です。参考文献の4)では社会福祉法人としての社会福祉協議会の可能性、5)ではコミュニティオーガナイザーとしての社会福祉協議会をリードしてきた人たちの思いが語られ、6)では小地域活動の実践がまとめられており、参考になると思います。その他、多くの書籍が出版されていますので、探してみてください。自分の住んでいる都道府県、市町村の社会福祉協議会の活動を調べることも大いに参考になると思います。

**課題2**  
アドバイス

テキスト3)の内容に関する課題です。地域福祉マネジメントの概念を理解し、住民主体の地域福祉をどのように制度、自治体が支援していくのかを考えてください。参考文献7)では庁内連携、8)では地域拠点の支援の視点から事例を交えて解説しているので、参考になると思います。探すと多くの先進事例が見つかると思います。自分の住んでいる都道府県、市町村の活動を調べることも大いに参考になると思います。

## ■評価の方法・基準

---

基本的にはレポートによって評価する（課題レポート50%、試験レポート50%）。

- ・レポートの評価基準は
  - ①問題意識の明確化
  - ②構成（章立てを行う）
  - ③結論の明確化
- ・段落や誤字脱字にも注意が必要である。
- ・引用文献をはっきりと明記すること。

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

---

- \* 1) 渡部剛士著 『地域福祉のすすめ 東北からの発信』CLC、2017年
- \* 2) 藤井博志編著 『市民がつくる地域福祉のすすめ方』CLC、2015年
- \* 3) 平野隆之著 『地域福祉マネジメント 地域福祉と包括的支援体制』有斐閣、2020年
- 4) 上野谷加代子編著 『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割』ミネルヴァ書房、2020年
- 5) 塚口伍喜夫他編著 『社協舞台の演出者たち』大学教育出版、2019年
- 6) 上野谷加代子編著 『小地域福祉活動の新時代』CLC、2014年
- 7) 厚生労働省老健局 『地域づくり部署と福祉部署連携のためのガイドブック』地域づくりにおける生活支援体制整備事業と地域づくりに関する各種事業との連携に関する調査研究事業（平成28年度老人保健健康増進等事業）、2017年（[https://www.clc-japan.com/research/2017\\_01.html](https://www.clc-japan.com/research/2017_01.html)）
- 8) 厚生労働省社会・援護局 『地域共生社会を実現するための手探りではじめる〈自由な〉拠点の作り方』地域共生社会における多機能型地域拠点の活用に関する調査研究（令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業））、2020年（[http://www.clc-japan.com/research/2020\\_02.html](http://www.clc-japan.com/research/2020_02.html)）